

口腔の役割

乳歯の行方(ゆくえ)

日本では昔から、下の乳歯が抜けたら屋根に、上の乳歯が抜けたら縁の下にと、次に生えてくる永久歯がまっすぐに生えるようお願いを込めて放り投げる習慣がありました。では、他の国はどうでしょう。

日本と同じ東アジアの韓国、中国、台湾、そして東南アジアのマレーシア、カンボジア、インドネシア、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナムは下の歯は屋根へ、上の歯は地面やベッドの下に置くのだそうです。

他にも屋根に放り投げる習慣のある国はたくさんあるようですが、カリブ海のドミニカ共和国やハイチでは「ネズミよ、きれいな歯をもってこい！」とお願いを込めて投げるのだとか。お願いする相手も国によって異なり、インドはスズメ、スリランカはリス、ブラジルでは小鳥や聖ヨハネ様、そしてエジプト、リビア、レバノンには太陽にお願いを込めるのだそうです。

顎(あご)を削る手術の際、合理的な設計で使いやすいことからドイツ製の器具を使いますが、そのドイツでは乳歯が抜けたらそのまま捨ててしまうそうです。これまた何とも合理的。

一方、抜けた乳歯を枕の下やコップに入れて眠ると、翌朝にはお金やプレゼントに変わっているという習慣の国があります。フランス、スペイン、メキシコや南アフリカ共和国の他、南アメリカのアルゼンチン、コロンビア、ベネズエラでは子供が眠っている間に「ネズミの使者」が現れ、さらにアメリカ合衆国、カナダ、イギリス、オーストラリアでは「トゥース・フェアリー(歯の妖精)」が現れ、お金やプレゼントと交換してくれるのだそうです。

写真はアメリカの女の子に大人気のバービー人形の「トゥース・フェアリー」バージョン。人形には枕の下に入れる乳歯ケースが付いています。「トゥース・フェアリー」は虫歯の乳歯はコインやプレゼントと交換してくれないとも言われます。幼少時から身近な人形を利用し、歯の大切さを教えるにはとても良いアイデアだと感心します。

バービー
「トゥース・フェアリー」
アメリカマテル社/2002年製



付属の乳歯ケース

日本では昨今、居住様式の多様化からでしょうか、歯を放り投げる習慣はあまり聞かなくなっています。マンションの下の階のベランダに、歯でも落ちていようものなら、それは住人は怖がるでしょう。

「トゥース・フェアリー」の習慣がない日本。幼少時より歯の大切さを教えるには、「かかりつけ歯科医院」を持つことが必要です。そして何よりも虫歯になってしまう以前、つまり歯が痛くないからこそ歯科医院を受診し、歯磨き指導を受け、身近なものにしておくことが大切です。

「ネズミの使者」に「トゥース・フェアリー」、とても夢のある話ですが、「サンタクロース」ならまだしも、夜中にこの二つに変装するのはちょっと考えてしまいます。

<参考>

「はがぬけたらどうするの？」セルビー・ビーラー、ブライアン・カラス こだまともこ訳 フレーベル館 (2008年)

【歯科口腔外科診療部長 今井 正之】

